



# 男声合唱団コール・グラント 創立 35 周年記念コンサート



後援

埼玉県合唱連盟・日本男声合唱協会  
久喜市教育委員会・加須市教育委員会

 令和 6 年度埼玉県文化振興基金助成事業

2024年12月21日（土）  
久喜市栗橋文化会館イリスホール

# Message

鎌田弘子

ファミリー・ひろ合唱団 主宰指揮  
埼玉県合唱連盟顧問

男声合唱団コール・グランツ創立35周年記念コンサートおめでとうございます

想えば、35年前私がどうしても男声合唱団を作りたくて(女声合唱団はいくつか指導しておりました)男声合唱団を立ち上げましたところ、大勢の優秀な団員の方々がお集まり下さいました。当時は、男声合唱団が殆どなくて、県内は勿論、県外からもお集まり頂きました。各々合唱経験を持ち、音楽的資質を十分に備えた素晴らしい方々です。初めて彼等のハーモニーを聞かせて頂いた時の印象は未だに忘れられません。すごい迫力と低音の響きに圧倒され、「この方々を指導して行くんだ」と身の引き締まる思いでした。

本来和声は四声体が基本で、混声合唱を作りたいと願っておりました。コール・グランツとは、バリトンの今は亡き新井先生(医師)が、輝くという意味で命名して下さいました。誕生後、団員の方々は常に前向きに取り組んで下さった事は忘れられません。しかし、その後笠井先生にバトンタッチ、新たなグランツとなり、何と35周年を迎えられた事は、団員の皆様方の熱意と御努力の賜で心から敬意を表します。

尚この度、委嘱作品「坂東栗橋感懐」その作品の素晴らしさに感動致しました。下總<sup>しもおさ</sup>皖<sup>かん</sup>一<sup>いち</sup>先生の弟子として心より御礼を申し上げます。当日の演奏を楽しみにしております。

小野瀬照夫

埼玉県合唱連盟理事長

創立35周年記念コンサートに寄せて

このたびは創立35周年記念演奏会の開催、誠にありがとうございます。私どもにとってコール・グランツさんの存在は昔からの憧れの存在です。それはやはり現役時代に男声合唱にはまった輩が、オヤジとなってどんなに仕事で忙しくしていても合唱を楽しむことにエネルギーを注ぎ、さまざまな場面で積極的に参加されているお姿の素晴らしさに、「どんな場面でも合唱にかけける揺るぎない力」を感じます。それには団員皆さんの他人には見えないところでの努力があってこそその結果であると思います。では、その原動力となるものは何なのでしょうか？私は、先ずはより良い演奏を目指すための好奇心と探求心、そして己に厳しい克己心、また団員同士の互いに思いやる利他の愛情が長年に渡って持続して「伝統」となったからではないかと拝察いたします。

今回の演奏会は「泣きたくなる」昭和の歌や男声合唱の定番曲、そして心に染み入る「みやこわすれ」のステージに加え、地元「栗橋」を舞台とした委嘱作品「坂東栗橋感懐」にも興味津々です。

グランツの皆さんにはこれからも末永くその素晴らしい合唱を続け、現代の多くの人々に、そして未来に出会う多くの人々に豊かなハーモニーを届けて戴きたいと思っております。

鈴木 順

日本男声合唱協会 事務局長

創立35周年記念コンサート おめでとうございます

本格的な男声合唱団として地域の合唱界を支え、35年という長い間、意欲的な活動を続けてこられたことを高く評価しています。今回の演奏会も、節目の年にふさわしい意欲的なプログラムです。皆様の活動が、もっと広く多くの合唱ファンに伝わり、大きなウェーブになっていくことを期待しております。

日本男声合唱協会(JAMCA)は1971年創立で、これまで全国で演奏会を行ってまいりました。この数年間は感染症の拡大などで大きなイベントの開催はできませんでしたが、来年2025年4月には神奈川県で久しぶりにJAMCA小田原演奏会を開催します。全国から集まる男声合唱の仲間、そしてコール・グランツの皆様とお会いし、交流できるのを楽しみにしています。

## 土田耕太郎

創立35周年記念コンサート実行委員長

本日は師走のお忙しいところ、私たちの創立35周年コンサートにお越しいただきありがとうございます。団員数の減少や高齢化などで団の運営は厳しいものがありますが、35年間変わらずに毎週土曜の夜6時から練習して参りました。もちろん途中から入団された方もおられ、また古河・野木・旧久喜・白岡など栗橋以外の方が半数以上と、実は多様なメンバーの合唱団です。

このコンサートでは、バラエティに富んだ選曲を心がけ、合唱団経験のある方、ない方、また男声合唱を初めて聴かれる方など、多様なお客様に楽しんでいただける曲を編成いたしました。実際に、70年代の懐かしい曲を聴きたいから、「水のいのち」が好きだから、「栗橋音頭」を楽しみにしている、といった声をいただいております。初めてお聴きになる曲もあるかと思いますが、実は合唱界ではどれも有名な曲ばかりです。

また、演奏曲を編成する上で大きな転換点もありました。南栗橋在住のベース田村邦光さんのご提案で、しもおさかん いち下總皖一と詩人高橋郁いくの名曲と「栗橋音頭」を、お知り合いの作曲家中野さとみさんに男声合唱のメドレーにさせていただくことでした。お陰で、栗橋をテーマにした男声合唱曲の誕生に立ち会うことが出来たのは、栗橋生まれの私にとっては幸せなことでした。

多くの方のご支援があって今日を迎えることができました。いつも優しくご指導される笠井先生、陰で支えて頂いた安田先生、周囲の方に大いに宣伝していただいた先輩方、友人達、家族、そしてコール・グランツをこの世に誕生させていただいた鎌田弘子先生にこの場を借りてお礼を申し上げます。ご来場の皆様が年末のひとときを、私たちの音楽と共に過ごしていただければ、これほど嬉しいことはありません。

## 加藤良一

男声合唱団コール・グランツ団長

2020年4月、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が出され、まさに国難といえるほどの危機的状況に見舞われたことは記憶に新しいことです。わがコール・グランツも例外ではなく練習会場が閉鎖されるなど活動の場所も機会も失い、お互いの安否確認はメールなどの通信手段に限られ、活動は完全に停滞してしまいました。ようやくコロナ禍が収まったのは、感染症分類が「2類相当」からインフルエンザと同等の「5類」へ変更された2022年12月でした。その後、徐々にさまざまな規制が解除され、少しずつふつうの生活ができるようになりましたが、合唱界においては、団員の減少や団体の消滅など深い傷跡が残ってしまいました。これは、埼玉県合唱連盟の加盟団体の減少にもはっきりと表れています。

コール・グランツは、1988年11月、埼玉県栗橋町(現久喜市)に鎌田弘子先生ご指導のもと誕生しました。今回一年遅れではありますが、35周年記念コンサートの開催に漕ぎつけたことは、ひとえに指揮者笠井利昭先生・ピアニスト安田弘子先生はじめヴォイストレーナーの指導の賜物と感謝いたしております。ご多分に漏れず、わがグランツも団員の高齢化に伴い、以前よりも曲の仕上がりが遅くなっております。また、私たちがいままで楽しく歌えるのは、陰で支えてくれている家族や関係者のご理解と応援があればこそです。

皆さまにあらためてお礼を申し上げます。

コール・グランツホームページ <http://www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/>

## 団員募集

男声合唱団コール・グランツでは、いつでも団員を募集しています。男声四部合唱の幅の広いハーモニー、男性の力強さ、優しさを如何に表現するか、あなたも一緒にチャレンジしてみませんか。ぜひご参加ください。初心者歓迎です。発声の基礎から一緒に学んでまいります。今回のコンサートのようにジャンルを問わずなんでもチャレンジしています！

# Program

## 第1ステージ 暗くて泣きたくなる男声合唱曲集『神田川』 石若雅也編曲

- ・ 神田川 喜多条 忠作詞 南こうせつ作曲
- ・ 学生街の喫茶店 山上路夫作詞 すぎやまこういち作曲
- ・ 五番街のマリーへ 阿久 悠作詞 都倉俊一作曲
- ・ 22才の別れ 伊勢正三作詞・作曲
- ・ 遠くへ行きたい 永 六輔作詞 中村八大作曲

## 第2ステージ Part 1 男声合唱を支えていただいた作曲家へ感謝を込めて

- ・ 月夜を歩く 伊藤 整作詩 多田武彦作曲 男声合唱組曲<雪明りの路>より
- ・ 雨 高野喜久雄作詩 高田三郎作曲 男声合唱組曲<水のいのち>より
- ・ 海はなかった  
フィンランディア ヒムニ 岩間芳樹作詩 廣瀬量平作曲 男声合唱組曲<海の詩>より
- ・ Finlandia hymni (フィンランディア賛歌)  
V. A. コスケニエンミエ作詩 J. シベリウス作曲
- ・ For the beauty of the earth (この美しき大地に)  
F. S. ピアポイント作詩 J. ラター作曲

----- 小 休 憩 -----

## 第2ステージ Part 2

- ・ 鷗 かもめ 三好達治作詩 木下牧子作曲
- ・ 酒頌 しゅしょう W. B. イェーツ作詩 林 望訳詩 上田真樹作曲
- ・ ワクワク 谷川俊太郎作詩 信長貴富作曲

### ◎男声合唱団コール・グランツ委嘱作品

合唱とピアノのための民謡交響詩「坂東 栗橋 感懐」 ばんどうくりはしかんかい 中野さとみ作編曲

----- 休 憩 -----

## 第3ステージ 男声合唱とピアノのための組曲『みやこわすれ』

さかん 野呂 昶 作詩 千原英喜作曲

- ・ 薔薇 バラ のかおりの夕ぐれ
- ・ はっか草
- ・ すみれ
- ・ みやこわすれ



## 【曲目解説】

### 第1ステージ：暗くて泣きたくなる男声合唱曲集『神田川』 石若雅也編曲

❖ 加藤良一 ❖

編曲者石若雅也氏は曲集(2017年8月)の解説でつぎのように述べている。

合唱はこれに関わらない人から見ると“まじめで一生懸命”で“やや暗い”という印象がつきがちですが、われわれ日本人はそんな暗いものや涙をそそるものになぜか心を惹かれてしまいます。そんな雰囲気ピッタリのこの曲集で聴衆の心をわしづかみにしてみませんか？

この曲集は「暗い曲」というコンセプトで昭和の名曲5曲を選曲しました。私の親がちょうどこれらの曲の世代であり、よくCD(レコード)を流していたので、私自身としても馴染みのある曲ばかりです。この暗さの中にある、昭和の古き良き時代のなんともいえない雰囲気を、みなさんもぜひ味わってください。真面目で感動的に歌い上げるもよし、ちょっとした演出を加えてドラマ仕立てにすることも出来るでしょう。これらの曲を地味に演奏した後のステージでは、大いに盛り上がってください。他のステージを引き立てるのが、この曲集の役目でもあるのです。演奏時間に制限がある場合は2番をカットするなど、自由に演奏してください。

1. **神田川**： 「南こうせつとかぐや姫」が歌った日本のフォークソング。1973年シングルレコードとして発売された。作詞の喜多條 忠が、早稲田大学在学中に恋人と神田川近くのアパートで暮らした思い出を綴ったヒット曲。
2. **学生街の喫茶店**： 1972年GARO 3枚目のシングル。ガロ最大のヒット曲であり、1970年代の学生文化を象徴する曲として評価を得る反面、和製のクロスビー・スティルス・ナッシュ&ヤング(フォークロック界の有名ミュージシャンが集結したスーパーグループ)を目指していたガロのイメージにそぐわない歌謡曲がヒットしたことにメンバーは葛藤を覚えていたという。
3. **五番街のマリーへ**： 1973年に発売された、ペドロ&カブリシャスのシングル。ペドロ&カブリシャスの代表曲のひとつである。ボーカルは高橋まり(現高橋真梨子)、後年高橋自身によってもカバーされている。発売から42年が経過した2015年の第66回NHK紅白歌合戦で高橋のソロとして歌われた。1973年夏、阿久悠と都倉俊一が、船を使って1週間で日本1周する作詞、作曲の洋上セミナーの講師となった際、せっかくだから乗船中に1曲作ろうということで作曲されたものの。
4. **遠くへ行きたい**： 1962年NHK総合テレビの『夢であいましょう』でジェリー藤尾が歌った。1970年スタートした旅番組『遠くへ行きたい』のテーマ曲としても使われている。1975年以後は日本の中学生向け音楽教科書に、さらに高校生向け音楽教科書に何度か掲載されている。

### 第2ステージ Part 1：男声合唱を支えていただいた作曲家へ感謝を込めて

❖ 野口享治 たかはる ❖

1. **月夜を歩く**： 伊藤 整作詩 多田武彦作曲 男声合唱組曲<雪明りの路>より  
伊藤整の処女詩集『雪明りの路』から詩を選んだ多田武彦氏2つの組曲のなかの一つ。1960年に関西学院大学グリークラブによって初演され、今でも多くの男声合唱ファンに歌い継がれる名曲のひとつ。また、詩人伊藤整の作品のなかでも、とくに素朴きわまる抒情が溢れている恋愛詩でもある。『雪明りの路』は、1926年、伊藤 整21歳のときに出版された。その序で整が「此の詩集の大部分を色付けてゐるのは北海道の自然である」と強調しているように、塩谷や小樽近郊の自然や風土をうたった詩だが、それとともに、恋愛に対して鋭敏すぎるほど鋭敏であった若き日の女性観や、自身の恋愛体験に基づいて書かれた「恋愛詩」ともいえる。「月夜を歩く」は、副題として「ティチアーノ筆『白衣の女』の裏に」と添えられている。「白衣の女」は、ルネサ

ンスのイタリアの画家Tizianoの作品であるが、整はその絵に似た女性に片恋をしており、夜陰にまぎれて片思いの女の住む忍路村に接近したり、切り通しの上から見下ろしたりと、月の光を浴びて微笑む整の心境が窺える。

多田武彦は「タダタケさん」と愛称で呼ばれ、コール・グランツも創立当時から愛唱している作曲家の一人。2003年埼玉の男声合唱5団体で結成した、男声合唱プロジェクトYARO会が第1回ジョイントコンサートで演奏した代表作・組曲『富士山』を聴かれたタダタケさんは、そのクオリティの高さに感心し(!)、その後、埼玉の民謡「秩父音頭」を男声合唱版に編曲しプレゼントしてくれたのはとても名誉なことであった。タダタケさんと生前より懇意にしていた男声合唱団コール・グランツ団長の加藤良一が、Webで多田武彦<公認サイト>を管理運営している。

## 2. 雨： 高野喜久雄作詩 高田三郎作曲 男声合唱組曲<水のいのち>より

男声合唱のみならず、混声合唱、女声合唱としてもたくさんの方の合唱団で演奏される合唱組曲のなかの1曲目。ピアノのアルペジオが途切れることなく演奏されていく様は、まるで「雨」が地上の全てのものに好むと好まざるとに関わらず平等に降り注いでいる様を表わしている。

<水のいのち>の楽譜には「演奏上の注意」が2頁にわたって書かれているほど、作曲者の意図どおりに歌うことを求めている。他の作曲家ではあまり見られないことである。

## 3. 海はなかった： 岩間芳樹作詩 廣瀬量平作曲 男声合唱組曲<海の詩>より

作曲家廣瀬量平の5曲からなる合唱組曲「海の詩」の第1曲。1975年のNHK全国音楽コンクール高等学校の部の課題曲となった。作詞者の岩間芳樹によると、津軽半島への旅をしたとき、あるさびれた漁村へたどり着く。老人たちがイカ漁で細々と生活しているなかに17歳になる若者がいた。彼は中学を出て東京へ出たものの絶望して村へUターンしてイカ漁に励んでいた。しかし、さしてイカは獲れない。若者に「海の村へ帰って来て良かったらう？」と訊くと、若者は「海なんかねえよ！」とつぶやいた。海を前にした若者が、空に飛び立てないまま死んで行ってしまった鳥たちに自分を重ね、暗い海と厚い雲に、希望を見出せない現実や社会を対比させている。あたかも若者にとっては自分の生きた痕跡あしあとに感じられる。

## 4. Finlandia hymni (フィンランド賛歌) :

V. A. コスケニエンミエ作詩 ジャン シベリウス作曲

この曲は、作曲家シベリウスの母国フィンランドでは、ロシアからの独立運動の際に国民の精神的支柱となった曲といわれる。フィンランド第二の国歌といわれるほど今もなおフィンランド国民に愛されている。1976年にヘルシンキ大学が来日して原語で歌い、その深い歌声が感銘を与えたことから、日本のグリークラブでも今や原語で歌われることが多い曲でもある。

## 5. For the beauty of the earth (美しき大地に) :

F. S. ピアポイント作詩 ジョン ラター作曲

この曲の歌詞は、もともと讃美歌または聖歌として知られたものであり、ラターの作曲以前にもさまざまなメロディがこの歌詞にあてられた。「うつくしき地とかがやく空と…」または「空は、ほがらに 地は、うるわしく…」で始まる日本語訳がある。ラターは、主に合唱の分野で活躍しているイギリスの作曲家。流れるようなメロディと美しい歌詞が特徴の曲で、世界的にも有名で、宗教曲ながらも様々な場面で歌われる。楽譜冒頭には「Happily」(幸福に、愉快地)と指示がなされている。果たしてそのような曲としてお届けできるか…

## 第2ステージ Part 2:

### 1. 鷗かもめ： 三好達治作詩 木下牧子作曲

「鷗」とは、旧制高校の夏の真っ白な制服を、白い鷗いんゆになぞらえた隠喩という比喩法である。

何度も繰り返される「ついに自由は彼らのものだ」という言葉に込められているのは、二度と声をかけることのできない、戦争で命を落とした人々への祈りであると同時に、詩人三好達治自身も含めて、生き残った者たちの決意である。作曲した木下牧子によれば、「ついに自由は彼らのものだ」ということばには強い祈りを感じる、戦争で肉体は失われたが、魂はいまや解き放たれ自由に空を飛び回っているという。

## 2. 酒頌<sup>しゅしょう</sup>： W. B. イェーツ作詩 林 望訳詩 上田真樹作曲

「酒頌」は、早稲田大学グリークラブ第57回送別演奏会において、この演奏会で卒団する100期生のために男声合唱版として作曲された。テキストは林 望の訳詩集『新海潮音』（原詩：ウィリアム・バトラー・イェーツ）による。林の訳詩にはない「乾杯」の語を上田真樹が曲の最後に追加し、大変威勢の良い曲となっているものの、若き男性の恋の歌でもあることを忘れてはならない。今では、酒の歌ではあるが高校生(?)も歌う定番曲となっている。

## 3. ワクワク： 谷川俊太郎作詩 信長貴富作曲

東日本大震災のあと、歌で日本をつなげよう、歌で被災地を応援しようと企画されたカワイ出版の「歌おうNIPPONプロジェクト」のために書きおろされた曲。詩は、2024年11月に鬼籍に入られた谷川俊太郎氏。何気ない日常を、ポップスを意識した音楽のスタイルで描かれており、そんな日常の延長にこそ復興があるのでは、という作曲者の思いが込められている。谷川俊太郎氏は、哲学者で法政大学総長の谷川徹三を父、衆議院議員の長田桃蔵の娘である多喜子を母として生まれた。

## 4. 合唱とピアノのための民謡交響詩「坂東栗橋感懐」： 中野さとみ編作曲

この曲は、ピアノが「伴奏」とどまらず合唱と対等な存在となっている、300小節を超える交響詩。曲は、爽やかな夜明けを告げるようなピアノによる「栗橋草刈り唄」ではじまり、つづいて「小舟を出せば」で水郷地帯ならではの水没する田畑を歌い、さらに、帆を上げぬ泊り舟が波間にたゆたうのどかな利根河畔の風景を詠み込んだ「泊り舟」へとつながっていく。そして終曲「栗橋音頭」は一転して、地元栗橋の盆踊りで盛んに歌われるアップテンポの曲となり、フィナーレを締め括るのに相応しい雄大な雰囲気を用意したものである。

(詳しくは9頁を参照されたい)

## 第3ステージ：男声合唱とピアノのための組曲『みやこわすれ』<sup>のろさかん</sup> 野呂 昶<sup>のろ さかん</sup> 作詩 千原英喜作曲

### ❖ 加藤良一 ❖

「みやこわすれ」の名の由来は、昔、京を遠く離れた貴人が「この花を眺めていると都のことを忘れられる」と語ったことであるという。

いかにして契りおきけむ白菊を都忘れと名づくるも憂し —— 順徳上皇

1. 薔薇のかおりの夕ぐれ
2. はっか草
3. すみれ
4. みやこわすれ

詩人<sup>のろ さかん</sup> 野呂 昶 の詩情に惹かれて作曲した千原英喜氏によると、「薔薇のかおりの夕ぐれ」は<sup>ほの</sup> 仄かな官能性、「すみれ」はセンシティブな情感、「はっか草」と「みやこわすれ」はどこか演歌やバラードに通じるようなヒューマンチックな歌謡性を大切に“泣き”の入った熱唱を期待しているという。

2023年の秋ごろ、久喜市立栗橋南小学校放課後子ども教室で一緒にいるコー  
ル・グランツの田村邦光さんから、「地元の偉人、<sup>しもおさかんいち</sup>下總皖一と<sup>いく</sup>高橋 郁が書いた民  
謡を、西洋音楽の男声合唱曲にできないか」というお話をいただきました。私が音楽  
と向き合うとき、常々「日本の音楽と西洋音楽の違い」「日本に生まれながら日本古  
来の音楽より西洋音楽のほうが身近にあることが多い」ことを意識させられるの  
で、とても着眼点が面白い企画だなと思い、取り掛かることにしました。

原曲を聞いてみると、飾らない素朴な歌声で、太鼓や鳴り物、三味線などの楽器  
の伴奏とともに昔の情景がのどかに、ゆったりと歌われていました。「民謡を西洋音  
楽にのせる」と一口に言っても、随分曲の雰囲気が違うので、いざ書き始めると難し  
く、少々戸惑いました。地元の偉人の作品、しかも愛され歌い継がれている名曲に、  
新たに手を加えることは恐れ多く、作品に敬意を持った響きとなるようにしたつも  
りではありますが、うまくいっているかどうか。．．。

『栗橋草刈り唄』、『小舟を出せば』、『泊り舟』は、栗橋南小学校「多目的室」  
に飾られている、小学校の周りの昔の様子を紹介する写真、昔の様子を描いた絵な  
どから得られた印象をモチーフにしながら、「舟」、「水」の語を、『栗橋音頭』は「歴  
史」の語をキーワードに、利根川から童謡のふるさと大利根、栗橋の民謡に歌われ  
た時代に思いを馳せ、浮かんだ音を書きました。特に音で特定の物や事柄を具体的  
に表現はしていないので、お聴きになったみなさまが、それぞれ栗橋の地を思い、  
イメージを膨らませて聴いていただけましたら幸いです。

グランツのみなさんにも、それぞれ感じたものを歌っていただけたら、とお願い  
していますので、熱い歌声からさらにイメージを膨らませてお聴きいただけるので  
はないかと思えます。

今回指揮者の笠井利昭先生、ピアニストの安田弘子先生、副指揮者の野口享治<sup>たかはる</sup>さ  
ん、コール・グランツのみなさまお一人おひとりには、演奏にあたって、書いた音  
の一つひとつを大変誠実に、大切に、丁寧に向き合い、表現を工夫し、優しく豊か  
な響きに仕上げ、そして、曲を深く理解しようと熱心に取り組んでくださいました  
こと、また、創立35周年という大切な節目の年に、身に余る貴重な機会をくださ  
いましたことに心から感謝いたします。

コール・グランツの益々のご発展をお祈り申し上げます。



日光御社参 栗橋渡し船橋の図

### 栗橋は利根川とともに歩んできた～徳川幕府直轄の栗橋関所

コール・グランツの生誕の地であり「坂東栗橋感懐」の舞台である栗橋は、利根川とともに歩んできた。利根川は日本最大の流域面積を誇り、肥沃な土地は米をはじめ豊かな農産物をもたらしてきた。日光街道が利根川を越える要地として、1624年には箱根・碓氷と並ぶ徳川幕府直轄の栗橋関所が置かれ、江戸に持ち込まれる鉄炮(入鉄炮)と、江戸屋敷に人質として置かれた大名の妻女が脱出するのを防ぐため江戸を出る女(出女)を取り締まるなど、治安維持のための重要な役目を担った。また北方の敵から江戸を防衛する目的もあったとも言われている。1689年には「奥の細道」の松尾芭蕉もここを通っている。

また舟を使った交易も盛んで、水陸交通の要衝の宿場町として栗橋はおおいに栄えた。だが時代とともに鉄橋がかかり渡し船は役目を終えたが、その後も高瀬舟などの舟運は続き、船着き場には今はない「舟戸」の街並みもあった。

### 治水の歴史と戦後最大の水害「カスリーン台風」

一方で、利根川はたびたびの氾濫で人びとを苦しめてきた。徳川幕府は江戸を水害から守るため、60年の歳月をかけ、それまで江戸湾に注いでいた流れ(現在の江戸川)を太平洋の銚子方向に変えた(利根川の東遷)。しかしそれでも「川には記憶がある」とも言われるとおり、利根川は幾度も洪水を繰り返してきた。特に昭和22年のカスリーン台風では、東村(現加須市)で350メートルにわたり堤防が決壊し、濁流は現久喜市を含む埼玉県東部に留まらず、東京都葛飾・足立・江戸川区まで達し「戦後最大」の水害となった。

その後も水害から首都圏を守るべく、関東4県に跨がる日本最大の調整池「渡良瀬遊水池」、平成18年に春日部市に完成した「防災地下神殿」、堤防強化事業、そして令和2年に完成した



稲荷屋水没の写真 稲荷屋は川端康成や山花袋が鰻を食べた料亭 (昭和10年の水害の様子) 久喜市郷土資料館提供

「ハッ場ダム」などさまざまな治水事業が続いている。令和元年の台風19号ではカスリーン台風を超える雨が降ったが、完成間近のハッ場ダムも大きな一助となり事なきを得た。



カスリーン台風で氾濫した利根川 東北本線の鉄橋上空  
線路が水没した先が栗橋駅 久喜市郷土資料館提供

### 水郷地帯・豊田地区に生まれた詩人 高橋 郁

栗橋は北側の利根川だけではなく南側の権現堂川、中川にも囲まれた「輪中」のような地区であり、それぞれに渡し船があった。特に旧豊田村(後に合併して栗橋町)周辺は土地が低いために雨水が溜まりやすく、大雨が降るとたちまち一面が湖のようになった。秋には田舟という小さな舟に乗り稲を刈ったという。そんな旧豊田村中里に1904年一人の詩人が生まれた。高橋 郁である。のちに故郷を題材にした多くの歌を作詞したが、本コンサートでは、大利根出身の著名な作曲家下總皖一との「栗橋草刈り唄」「小舟を出せば」「泊り舟」と栗橋町商工会の委嘱を受けて作詞した「栗橋音頭」の4曲をメドレーにして『坂東栗橋感懐』として演奏する。

## 合唱とピアノのための民謡交響詩「坂東栗橋感懐」 田村邦光

この曲は男声合唱団コール・グランツ創立35周年を記念し、活動拠点の栗橋に因んだ曲として企画、地元栗橋の詩人高橋 郁(1904～1995)と隣りの大利根町出身の著名な音楽家下總皖一(1898～1962)の作品を基にして新たに作られた。収められた詩はいずれも高橋郁の作品である。

高橋 郁は栗橋地区の旧豊田村中里(現在の埼玉県久喜市中里)に生まれ育った。水郷地帯の中にあり洪水もあったが、自然が豊かで稲作の盛んな地域であった。そういった環境のなかで、郵便局に勤める傍ら、詩、短歌、俳句、随筆などを書き綴った。詩の幾つかは同時代の音楽家下總皖一(旧大利根町、現加須市出身)の作曲により音楽作品となった。1980年には埼玉県文化ともしび賞を受賞。高橋の著書「土橋の上から」から覗えるのは、自然を愛し、人に優しく、よく考える人、小川の魚に菓子を投げ



郷土栗橋の詩人高橋 郁

込んだり、近所の人を集めて鼓笛隊をつくり近くの小学校で演奏したり、とにかく積極的な人柄であった。

高橋 郁は多くの詩を残しているが、1972年までの主な作品を右表に示す。数曲は下總皖一作曲による。このなかで久喜市立栗橋南小学校校歌は1932年の作で、その後校名は変わっても同じ歌詞で実に90年以上歌われている。また、農業地帯であったことから「栗橋草刈り唄」、「小舟を出せば」などが生まれた。水郷地帯で秋は水が引かず小舟を使って稲の収穫をするなど、現在では想像もできない。後の土地改良で水郷豊田ではなくなった。また、1937年の音楽教科書「音楽」に、高橋 郁は下總皖一とともに当時の著名な作詞家、野口雨情、北原白秋、西条八十などと名を連ねていた。「泊り舟」が掲載されている。高橋 郁は発想が豊かで、こんな詩もある(中里老人クラブの唄)「ここは中里 昔の豊田 米の豊田の ウクライナ」。高橋郁はこのような作詞活動を通じて、地域文化を支え社会貢献をしてきたと言えよう。

高橋郁の作品 ( )は推定

曲名	制作年	掲載/委嘱元	作詞	作曲
1 久喜市立栗橋南小学校校歌	1932	豊田尋常高等小学校(久喜市立栗橋南小学校)	高橋郁	下總皖一
2 栗橋草刈り唄	(1937)	栗橋町教育委員会CD制作昭和61年	高橋郁	下總皖一
3 小舟を出せば	(1937)	栗橋町教育委員会CD制作昭和61年	高橋郁	下總皖一
4 泊り舟	1937	音楽教科書/師範学校	高橋郁	下總皖一
5 草とあれば	1937	音楽専門誌	高橋郁	下總皖一
6 栗橋八坂小唄	1972	八坂神社	高橋郁	高橋郁
7 栗橋音頭	1972	栗橋町商工会	高橋郁	民謡

### 「坂東栗橋感懐」の構成

4曲で構成する「坂東栗橋感懐」は、高橋 郁の作詞による「栗橋草刈り唄」「小舟を出せば」「泊り舟」(以上は下總皖一作曲)、及び地元栗橋の伝統民謡「栗橋音頭」をメドレーの形で作曲・編曲を行い、合唱曲にしたものである。「泊り舟」以外の3曲は民謡である。「泊り舟」は当時の師範学校・高等女学校用の音楽教科書にも掲載され、広く歌われていた。『坂東栗橋感懐』はこれらを元に独自の音楽展開のなかで、J. S. バッハのコーラルやフーガ、ベラ・バルトークのピアノソナタの作風も採り入れられた。さらにピアノは所謂「合唱の伴奏」という領域にとどまらず、歌と対等の重要な位置を担っているのも特筆される点である。大きく分けて「起-承-転-結」の四つの部分より構成されている。

**起** はじめに「起」の部分は民謡「栗橋草刈り唄」で幕が開ける。当地において草刈りは、草を肥料や家畜の餌にする重要な作業であった。この唄を唄って威勢良く草を刈っていた。

#### 栗橋草刈り唄

朝は朝霧 おら草刈りだよ 歌ででかけりゃ 気が躍る

\*ドッコイ サツサト 刈れ 刈れ ドッコイ サツサト 刈れ 刈れ

刈って集めた 濡れ草 小草 まアだ一 荷にやちと足りぬよ

\*くり返し

霧が霽れだしゃ 出たがる朝日 好きな口笛 好きな唄 \*くり返し

**承** 「承」の部分の民謡「小舟を出せば」は、「あゝやはり民謡だったのだ」と思い起こさせるような唄である。少しリズムが躍動してきて、調子よく稲を刈っていた情景が連想される。小舟に乗って稲を刈る、刈った稲を小舟に載せる、今では考えられないことであった。当時は秋の長雨で田んぼに水が溜まったため田舟とも呼ばれる舟を使った。因みに今の東京の葛飾地区も昔は同様であったという。

おぶね

小舟を出せば

軒の下から 小舟を出せば

道も畑も 水の底

\*それは昔サ ヤレトンヤレナ くり返し

枯れた真菰 ちよいと出たお月

水の小郷を よう照らす

\*くり返し



## 転

そこへ「転」の部分では「泊り舟」が展開する。川を輸送のルートとして使っていた頃、朝の出動前に川に泊まっている舟がある。のどかにそのテーマソングがユニゾンで流れる。それから突如、川縁の葦の間のどこからか鳥が急に飛び立ち、上空で力強く羽ばたいている。再びのどかな情景。歌にもどると弦楽四重奏を思わせるような合唱が響きわたる。大きな利根川のゆったりとした流れを連想させる。

泊り舟

岸の柳のつばら芽は そよ吹く風に誘われて

いつか清しき葉となりぬ 優しき青き葉となりぬ

やおらなびけど音もなき 柳の枝に燻りたつ

白き煙を 訝かれれば

まだ帆を上げぬ 泊り舟

(歌詞はいずれも抜粋)

## 結

締め括り「結」の部分は「栗橋音頭」である。この旋律は茨城県の「古河甚句」と栃木県・群馬県の「八木節」が元になったと伝えられている。1972年高橋 郁が新しく作詞した。「栗橋音頭」は栗橋という歴史のある宿場町を讃え、町の発展を詠った唄であり、今も唄い継がれ踊り継がれ、多くの人々に親しまれている。本曲ではこの「栗橋音頭」を自由な変奏で、合唱とピアノのコラボにより大胆に展開させ、そして一気に歌い上げ、曲全体を大きく締めくくっている。

栗橋音頭

日光街道で 名の出た宿場

さても栗橋ア 歴史の町よ

いいとこどっこいしょ

籠の殿様 どなたでござる

毛槍ふりふり 声高々に

ここは栗橋 いいとこどっこいしょ

さても栗橋 いいとこどっこいしょ

思い出します 舟戸の柳

真帆よ片帆よ 入船出船

ここは栗橋 歴史の町よ

展びる町並み 繁盛の家並

聞いてお帰り 栗橋音頭



今後も地元栗橋の音楽が文化として伝承されいつまでも人々の心に響き、また曲を通して舞台でもある利根川に象徴される地球の自然がいつまでも持続・維持されることを願って止まない。

## Profile



### 指揮 笠井 利昭 *KASAI TOSHIAKI*

東京音楽大学 音楽学部 音楽学科 声楽専攻卒業。声楽を栗林義信・五日市田鶴子の各氏に師事する。同大学合唱団のメンバーとして、英国フィルハーモニア管弦楽団・NHK交響楽団・東京都交響楽団・日本フィルなどと共演する。男声合唱団コール・グランツに入団、鎌田弘子氏に指導を受け、2004年より正指揮者に就任。指導合唱団：ゆきエコー女声合唱団、男声合唱団コール・グランツ、つむぎの里ゆき混声合唱団。茨城県立古河第一高等学校教諭。



### ピアノ 安田 弘子 *YASUDA HIROKO*

東京音楽大学 音楽学部 音楽学科 器楽専攻ピアノ卒業。中・高音楽科教員免許、ヤマハ、カワイ、ビクター各講師資格取得する。現在、久喜混声合唱団、男声合唱団コール・グランツ、エストルーチェ、羽生混声合唱団、歌の会：絆、歌の泉、パープルエコー、オアシス他の伴奏を務める。



### 作曲 中野 さとみ *NAKANO SATOMI*

東京音楽大学 音楽学部 音楽学科 作曲指揮専攻 作曲「芸術音楽コース」卒業。在学中に作曲を北爪道夫、箏を滝田美智子各氏に師事。2024年日本童謡協会・新作童謡作詞作曲コンクール「ふたば賞」作曲部門優秀賞受賞。日本童謡協会会員。男声合唱団コール・グランツ委嘱作「坂東栗橋感懐」作曲。現在久喜市教育委員会主催放課後子ども教室(栗橋南小学校)実施委員長。

### ヴォイストレーナー／副指揮 野口 享治 *NOGUCHI TAKAHARU*

法政大学卒業。在学中法政大学アリオンコールにて、田中信昭氏(東京混声合唱団桂冠指揮者)から薫陶を受け、トップテナーとして活躍。現在コール・グランツ技術リーダー・ヴォイストレーナーとして団員をリードしている。

### ピアノ／ヴォイストレーナー 田村 邦光 *TAMURA KUNIMITSU*

京都大学卒業、大学院修了。修士・博士(工学)取得。卒業後石油会社入社。在学中よりピアノソロと歌伴奏を行い、多くの音楽家の薫陶を受けた。ラフマニノフ、グリーグのピアノ協奏曲をオーケストラと協演。現在、歌唱発声の特性を音声スペクトル・フォルマント分析により研究中。日本声楽発声学会で研究発表を行った。郷土の作詞家高橋 郁とその作品について調査研究(共同)した結果を市民セミナー等で講演、この研究が高橋 郁の詩による新曲「坂東栗橋感懐」の企画・作曲へと繋がった。

# Member 男声合唱団 コール・グランツ CHOR GLANZ

トップテナー	石黒 憲司	浅川 清	遠藤 恭平
セカンドテナー	加藤 良一	江橋 幸次	石川 和彦
バリトン	野口 享治	田淵 厚行	塚田 啓一
バス	土田 耕太郎	田村 邦光	横山 岩雄

- ❖1988年11月、鎌田弘子先生(東京藝術大学で作曲家下總皖一先生に師事)のもと栗橋町(現久喜市)にて創団。2004年3月指導者が笠井利昭先生に代わり新たにスタート。
- ❖埼玉県男声合唱5団体(男声合唱団イル・カンパニーレ、男声合唱団コール・グランツ、男声合唱団ドン・キホーテ、男声合唱団メンネルコールA.E.C.、男声あんさんぶる「ポパイ」)からなる男声合唱プロジェクトYARO会幹事団体として活動。
- ❖創立以来、埼玉県合唱祭連続出演。埼玉発祥のおとうさんコーラス大会(現彩の国男声コーラスフェスティバル)は第1回から33回連続出演。その他イリス合唱祭(埼玉県久喜市)、ゆき合唱フェスティバル(茨城県結城市)、白岡市合唱連盟コンサート(埼玉県白岡市)などに定期的に出演。

## Staff

ステージマネージャ	森下 智晴	Morishita Tomoharu
フロントマネージャ	石川 正	Ishikawa Tadashi
アナウンス	秋庭 千歳	Akiba Chitose

### 音楽情報紙『おんがく広場』のご案内

コロナ禍発生直後の2020年4月、音楽・合唱仲間の情報交換を目指して情報紙『おんがく広場』の発行をはじめたところ、多くの作曲家、指揮者、演奏者など音楽関係者から悩みや励まし、感染防止の創意工夫に関する投稿を頂き、それがネットを通じて日本中で読まれるに至りました。2024年12月現在280号を超えて発行を続けています。

詳しくは下記ホームページをご覧ください。主筆はコール・グランツ団長加藤良一、バリトン野口享治も編集委員の一人です。

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/>

おんがく広場 Music Space 令和5年(2023) 5月8日(月) 発行:ウッキー会 発行責任者:加藤良一 第233号 連絡先 rkato@max.hi-ho.ne.jp

合唱団 “わだち” 51 周年 51 周年記念委員会 3年8か月ぶりの開催 会場全員で「ふるさと」を歌う!

5月5日(金・祝)浜離宮朝日ホールにて、合唱団“わだち”第51回定期演奏会が開催されました。

合唱団“わだち”も例外なコロナ禍に見舞われ、2019年の第50回定期演奏会のみ、集って歌うことができなくなりました。その間、オンライン練習などで活動を続けましたが、今年ようやくコロナ禍が収まり始めたため定期演奏会を開催することができました。3年8か月延期してきたステージにやと立つことができました。

合唱団“わだち”は、1967年に指揮者藤井昭二さんによって創設されました。藤井さんは1979年、チェコ政府より「ヤナーチク文化勲章」を受章し、その後1983年にチェコの音楽演奏旅行を実現しています。以来、チェコスロヴァキアの音楽を中心に歌い続けています。2012年藤井さんの急逝を受け、引継いだのが当時ピアノを弾いていた中村敏彦さんです。この合唱団の特徴はチェコの曲を原語で歌うことにあります。第2ステージで歌われた星野富弘作詞・千原英嘉作曲の混声合唱組曲「明日へ続く道」が唯一日本語で、他の3ステージはすべてチェコ語でした。正直なところチェコ語はまったくわかりませんが、歌詞カードと訳があり、曲目解説も付いていたので参考にしました。

新型コロナウイルス感染症の分類が本日5月8日より「2類相当」から「5類」へ変更されました。

WHOは5月5日に「緊急事態」を3年3か月ぶりに解除しましたので、世界全体としても表面的にはコロナ禍の厳重レベルは去ったといえるようになります。ただし、WHO事務局長は「コロナの脅威が終わったわけではない」と慎重な対応を求めています。日本でも専門家から「新型コロナウイルスがなくなるわけではない」と警告しています。

前述の合唱団“わだち”でも、歌い手はノーマスクで歌い、聴衆もマスクははいても一緒に全員合唱をする状況になってきました。これからはマスクを外され、自由に活動できるようになりますが、マスク着用は個人の判断に委ねられます。これから多くの合唱団や音楽団体が活動を再開すると思いますが、周囲の感染状況をよく調べて対応したいものです。【5類になると何がどう変わるのか、昨年12月に書いた資料】がありますので、ご参考にさせていただきます。

COVID-19～感染症の分類～2類相当から5類に移行すると何がかわるのか? (加藤良一 2022/12/27) [http://rkato.sakura.ne.jp/mushimegane/mmm20221227-covid\\_19\\_sanememo\\_no\\_bunrui.pdf](http://rkato.sakura.ne.jp/mushimegane/mmm20221227-covid_19_sanememo_no_bunrui.pdf)

編集委員(江川清樹、加藤良一(責任者)、新橋和、野口享治、見野邦光、南のりみ) バックナンバーはPDFでご覧いただけます



完成した強化堤防と坂東太郎



## 男声合唱団コール・グランツ 35年の主な活動

1988年11月 **創立(指揮者：鎌田弘子)**

- 1989年 第2回女声合唱団ヴォーチェ・ピアンカリサイタルに賛助出演  
1990年 第35回埼玉県合唱祭、第1回おとうさんコーラス大会出演  
1991年 第36回埼玉県合唱祭、第2回おとうさんコーラス大会出演、第34回埼玉県合唱コンクール出場「優良賞」受賞  
1992年 第37回埼玉県合唱祭、第3回おとうさんコーラス大会出演、第35回埼玉県合唱コンクール出場  
1993年 第38回埼玉県合唱祭、第4回おとうさんコーラス大会出演  
1994年 第39回埼玉県合唱祭、第5回おとうさんコーラス大会、栗橋文化会館イリスホールこけら落とし、茨城・結城市音楽祭出演  
1995年 第40回埼玉県合唱祭、第6回おとうさんコーラス大会出演  
「平吉毅洲合唱講習会」開催・演奏(栗橋町文化会館イリスホール)  
1996年 第41回埼玉県合唱祭、第7回おとうさんコーラス大会(関東おとうさんコーラス大会in小出郷・新潟)出演  
1997年 第42回埼玉県合唱祭、第8回おとうさんコーラス大会出演  
1998年 第43回埼玉県合唱祭、第9回おとうさんコーラス大会(関東おとうさんコーラス大会inひたち・茨城)出演  
1999年 第44回埼玉県合唱祭、第10回おとうさんコーラス大会、混声合唱団ファミリーひろぐランドコンサート(大宮ソニックシティ大ホール)出演  
2000年 第45回埼玉県合唱祭、第11回おとうさんコーラス大会(関東おとうさんコーラス大会in都留)、埼玉県大利根町合唱祭出演

### **コール・グランツ結成10周年記念演奏会(栗橋町総合文化会館イリスホール)**

- 2001年 第46回埼玉県合唱祭、第12回おとうさんコーラス大会(秩父ミュージックパーク音楽堂)出演  
2002年 第47回埼玉県合唱祭、第13回おとうさんコーラス大会(関東おとうさんコーラス大会in小出郷・新潟)、童謡のふる里おとね合唱祭(大利根町)出演

### **12月 男声合唱プロジェクトYARO会発足(旗上げ式兼忘年会)** (埼玉県下5団体)

男声合唱団イル・カンパニレ(川越市)／男声合唱団コール・グランツ(久喜市)／男声合唱団ドン・キホーテ(志木市)／男声あんさんぶる「ポパイ」(春日部市)／男声合唱団メンネルA.E.C.(上尾市)

- 2003年 イリス合唱フェスティバル(イリスホール)、埼玉県合唱連盟創立45周年記念演奏会(大宮ソニックシティ大ホール・男声の部)、第14回おとうさんコーラス大会(秩父ミュージックパーク音楽堂)出演

### **男声合唱プロジェクトYARO会第1回ジョイントコンサート(埼玉会館・指揮小高秀一)出演**

2004年 3月27日 **新体制(指揮者笠井利昭)でスタート**

- 第49回埼玉県合唱祭、第15回おとうさんコーラス大会(関東おとうさんコーラス大会in浜名湖)、結城市民音楽祭(第14回手づくりコンサート・茨城)出演  
2005年 第50回記念埼玉県合唱祭、第16回おとうさんコーラス大会(秩父ミュージックパーク音楽堂)、楽に寄すコンサート(イリスホール)出演

### **男声合唱プロジェクトYARO会第2回ジョイントコンサート(埼玉会館・指揮大岩篤郎)出演**

- 2006年 第51回埼玉県合唱祭、第17回おとうさんコーラス大会(白鷗大学東キャンパス白鷗ホール・栃木)出演  
2007年 第52回埼玉県合唱祭、第18回おとうさんコーラス大会(秩父ミュージックパーク音楽堂)出演  
2008年 第53回埼玉県合唱祭、第19回関東おとうさんコーラス大会inぐんま(みかぼみらい館・群馬)出演

### **男声合唱団コール・グランツ創立20周年記念演奏会(栗橋町総合文化会館イリスホール)**

### **男声合唱プロジェクトYARO会第3回ジョイントコンサート(埼玉会館・指揮小高秀一)**

- 2009年 第54回埼玉県合唱祭、第20回関東おとうさんコーラス大会inちば(多古町コミュニティプラザ文化ホール・千葉)、彩の国男声コーラスフェスティバル2009(秩父ミュージックパーク音楽堂)出演  
2010年 第55回埼玉県合唱祭、第21回関東おとうさんコーラス大会inかながわ(横浜港大さん橋国際客船ターミナル・大さん橋ホール・神奈川)、第10回童謡のふる里おとね合唱祭(アスタホール・大利根町)、彩の国男声コーラスフェスティバル2010(秩父ミュージックパーク音楽堂)、第29回久喜市合唱祭(久喜総合文化会館大ホール)、第18回古河市合唱祭(スペースU古河ホール)出演  
2011年 第56回埼玉県合唱祭、第22回関東おとうさんコーラス大会inいばらき(日立シビックセンター音楽ホール)、彩の国男声コーラスフェスティバル2011(秩父ミュージックパーク音楽堂)、第30回久喜市合唱祭(久喜総合文化会館大ホール)、イリス合唱祭 新「久喜市」合併記念事業(イリスホール)出演

- 2012年 第57回埼玉県合唱祭、イリス合唱祭(イリスホール)、彩の国男声コーラスフェスティバル2012(秩父ミュージックパーク音楽堂)、第31回久喜市合唱祭(久喜総合文化会館大ホール)出演
- 2013年 第58回埼玉県合唱祭、彩の国男声コーラスフェスティバル2013(秩父ミュージックパーク音楽堂)、イリス合唱祭(イリスホール)、ARIONファミリーコンサート賛助出演(東京・曳舟文化センター)、第32回久喜市合唱祭(久喜総合文化会館大ホール)出演  
**男声合唱団コール・グランツ創立25周年記念コンサート(久喜市栗橋文化会館イリスホール)**
- 2014年 イリス合唱祭(イリスホール)  
第59回埼玉県合唱祭、彩の国男声コーラスフェスティバル2014(川口総合文化センターリリア)、女声合唱団コール♪シャンティ ファーストコンサート友情出演(茨城・古河スペースU)、歌声よ届け 魚水愛子とヤングハートな仲間たちコンサート賛助出演(市民会館おのみや大ホール)、第33回久喜市合唱祭(久喜総合文化会館大ホール)出演
- 2015年 イリス合唱祭【イリス創立20周年記念】(イリスホール)、第60回埼玉県合唱祭、第26回関東おとうさんコーラス大会inかわぐち/彩の国男声コーラスフェスティバル2015(川口総合文化センターリリア)、第34回久喜市合唱祭(久喜総合文化会館大ホール)出演
- 2016年 第61回埼玉県合唱祭、彩の国男声コーラスフェスティバル2016(秩父ミュージックパーク音楽堂)、ゆうき合唱フェスティバル2016第26回手づくりコンサート(茨城・結城市民文化センターアクロス大ホール)出演
- 2017年 イリス合唱祭(イリスホール)、交通安全・防犯・暴力団追放キャンペーン(茨城・とねミドリ館)、第2回<sup>かのん</sup>香音コンサート賛助(茨城・野木エニスホール)、第62回埼玉県合唱祭、久喜市立栗橋南小学校音楽祭みなみんフェスタ・ゲスト(栗橋南小学校)、ゆうき合唱フェスティバル2017第27回手づくりコンサート(茨城・結城市民文化センターアクロス大ホール)、彩の国男声コーラスフェスティバル2017(ウェスタ川越大ホール)出演
- 2018年 イリス合唱祭(イリスホール)、第63回埼玉県合唱祭、彩の国男声コーラスフェスティバル2018(秩父ミュージックパーク音楽堂)、ゆうき合唱フェスティバル2018第28回手づくりコンサート(茨城・結城市民文化センターアクロス大ホール)、白岡市合唱連盟コンサート・ゲスト出演(白岡市コミュニティセンターホール)  
**男声合唱団コール・グランツ創立30周年記念コンサート(久喜市栗橋文化会館イリスホール)**
- 2019年 イリス合唱祭(イリスホール)、第64回埼玉県合唱祭、彩の国男声コーラスフェスティバル2019(埼玉会館大ホール)、白岡市合唱連盟コンサート・ゲスト出演(白岡市コミュニティセンターホール)、ゆうき合唱フェスティバル2019第29回手づくりコンサート(茨城・結城市民文化センターアクロス大ホール)
- 2020年 **【コロナ禍・緊急事態宣言発出】** イリス合唱祭(イリスホール)
- 2021年 第66回埼玉県合唱祭(彩の国さいたま芸術劇場)出演
- 2022年 第67回埼玉県合唱祭(彩の国さいたま芸術劇場)、彩の国男声コーラスフェスティバル2022(秩父宮記念市民会館大ホール)、イリス合唱祭(イリスホール)出演
- 2023年 第34回埼玉ヴォーカルアンサンブルコンテストSVEC(響の森 桶川市民ホール)出場：優良賞受賞  
第68回埼玉県合唱祭、イリス合唱祭(イリスホール)、彩の国男声コーラスフェスティバル2023(響の森 桶川市民ホール)、彩の国シニアコーラスフェスタ2023(響の森 桶川市民ホール)、ゆうき合唱フェスティバル2023第30回手づくりコンサート(茨城・結城市民文化センター・アクロス大ホール)
- 2024年 イリス合唱祭(イリスホール)、第69回埼玉県合唱祭、彩の国男声コーラスフェスティバル2024(響の森 桶川市民ホール)、白岡市合唱連盟コンサート・ゲスト出演(白岡市コミュニティセンターホール)  
**男声合唱団コール・グランツ創立35周年記念コンサート(久喜市栗橋文化会館イリスホール)**

# 粉屋のどら焼き

粉と麺・おかしのお店

大正元年創業

**つむぎや**

栗橋駅 東口徒歩1分 粉問屋・土物産直営店

10:00~16:00(水・日・祝日休) 0480-52-5001

